



佐田岬半島

現在の伊方町は、平成17年に3町(旧伊方町、旧瀬戸町、旧三崎町)が合併し、地域資源豊かな佐田岬半島の根元から先端までが一つの町となったことで、観光地としてより魅力的な町へと生まれ変わりました。これを機に、旧町それぞれで行っていた観光業務を一本化し、より効果的に「佐田岬」を売り出していこうという考えと、住民が主体となって地域を元気にしていこうという考えから、NPO法人佐田岬ツーリズム協会を立ち上げ、今年で5年目を迎えています。現在の会員数は、正会員が51名、賛助会員が93名、事務局



佐田岬

職員が3名(内、臨時職員1名)で運営しています。協会の事業としては、「地域に人と物の流れを創り出すことによる地域活性化」をテーマに、情報発信、調査研究、普及啓発、着地型旅行、商品開発、販売の5つの事業を行っています。この中でも着地型旅行については事業の核として位置付けており、平成20年度に第2種旅行業の登録を行い、地域密着型の旅行会社として、佐田岬半島の美しい自然や豊富な海の幸・山の幸、農漁業、歴史・文化などの地域資源を活用した旅行商品の企画・販売・実施を手掛けています。

しかし、今まで順風満帆でやってこれたわけではなく、むしろ課題ばかりが浮かんで



特集2

佐田岬半島の特色を活かした集客によるまちづくり



NPO法人
佐田岬ツーリズム協会
事務局長

高月 芳人





農業体験(芋掘り)

くるといった状況で、現在でもその様々な課題と向き合いながら、どのようにすればたくさんの方に足を運んでいただけるのか、どのようにすれば地域が元気になるのか、そしてなお且つ協会自体の運営財源をどのように確保していくのかなど、日々思索しているところです。

例えば、佐田岬は魅力的な地域資源は多いのですが、地勢的にそれらが散在している状況で訴求力に欠けるところがあり、またそれらを繋いで活かせるコンテンツが少ないということや、高速道路や鉄道も通らず、路線バスの本数も少ない状況で交通に難があるということ、そして観光客の受入



文化体験(裂織り)

体制がまだまだ不十分であることなど、解決しなければならぬことはたくさんあります。

とはいえ、頭を抱えるだけでは何も変わらないし、何も始まりません。前に進んでやってみないと分からないことだっただけです。これまで、様々な企画を実施してきましたが、募集してもお客様が集まらなかったり、お客様から厳しい意見をいただいたり、失敗の中にこそ次に繋がるヒントが隠されているのだと考えています。実際にお客様と交流したりお話しする中で、多く

のことに気付かされます。そういったお客様の声は素直に受け止め、確実に次への一歩に繋げていきたいと思っています。しかしながら、お客様のニーズは多様で、まさに十人十色です。地域には得意分野、不得意分野があり万能というわけではありませんが、その様々なニーズ全てに対応するのは不可能といえます。そのため、お客様のニーズを取り入れつつも自分の地域の強み(ウリ)や弱みは何なのかを理解した上で、強みを最大限に発揮できるような企画を実施していきたいと考えています。

今後も引き続き、「日本一細長い半島」ならではの地域の特色を活かした着地型旅行の企画・実施を行う一方で、豊富にある地域資源をさらに魅力的な物に磨き上げ、それらを繋ぐことにより「誰もが」行ってみよう！と思えるような地域を目指して「まちづくり」に取り組んでいきたいと思っています。もちろん「まちづくり」や「地域活性化」は、地域の方々の力なくしては成し得ないテーマであることは間違いありませんし、最大の地域資源は地域の方々に他なりません。今後より多くの方々を巻き込み、関わりながら「まちづくり」の仲間を増やしていくと共に、仲間同士が協力し合えるような環境と仕組みをつくり上げていきたいと思っています。そして関わった全ての方が、この地域に誇りと愛着を持つことができ、大声で自慢できるようになるよう私たちも頑張っていきたいと思っています。